

2023年1月8日

杭州 2022 アジアパラゲームズ
水泳競技日本代表推薦選手選考独自基準について

(一社) 日本知的障害者水泳連盟

(一社) 日本知的障害者水泳連盟及び (一社) 日本パラ水泳連盟の統一基準に加えて当連盟の独自基準は次のとおりである

1. 推薦独自基準

- (1) 表記大会はロス 2028、ブリスベン 2032 など今後のパラリンピックを見据え、次世代を担う若手選手の育成機会を兼ねる。
- (2) 2022 年度に実施された、下記の WPS 公認長水路大会の記録を基に、各種目上位 3 名を「杭州 2022 アジアパラゲームズ競泳競技日本代表推薦候補選手」とする。なお、予選・決勝がある大会は決勝の記録のみを採用し、各選手の最速記録のみ採用する。
 - ・マデイラ 2022 世界パラ水泳世界選手権大会
 - ・第 25 回日本知的障害者選手権水泳競技大会
 - ・ジャパンパラ水泳競技大会
 - ・Virtus オセアニア・アジアゲームズ 2022
 - ・第 39 回日本パラ水泳選手権大会
 - ・第 6 回日本知的障害者選手権新春水泳競技大会
 - ・2023 日本パラ水泳春季チャレンジレース
- (3) (2) で推薦候補選手となった選手に優先順位をつける。優先順位は各種目ランキングが上位の選手から順に順位づけをする。
- (4) (3) の選手の中で同順位であった場合、2 種目目以降のランキングが上位の選手から順位づけをする。
- (5) 優先順位の中で、上位から派遣人数枠までが推薦選手となる。
- (6) (2) に該当する選手のステータスが「N」の場合は「保留扱い」とし、2023 年 5 月 28 日までに国際クラス分けを受検し、参加要件を満たした場合は推薦選手となる。

(7) 選考に前後して必要な準備と日程

推薦選手が決定される前後に、対象となる選手は準備としてアジアパラリンピック委員会（APC）、JPC、連盟に対して様々な手続きが必要である。概ねその時期や、提出書類及びその対象選手は下記に示す通りである。手続きに必要な書類を理由なく期限までに提出しない選手は、選考を辞退したものととして取扱う。

2022年12月

- ① 2023年の国際ライセンス登録

2023年4-5月

- ① アクレ申請手続き（時期未定）
- ② 健康診断書の提出
- ③ アジアパラでの国際クラス分け TSAL の提出（対象選手には別途連絡する）
- ④ エントリー種目等調査

2023年6月以降

- ① 推薦選手の決定（6月下旬）
- ② エントリー締切（時期未定）
- ③ ユニフォーム採寸等手続き（時期未定）

2023年7月以降

- ① 派遣選手の決定（時期未定）

(8) 上記に該当しない事案が発生した場合は、別途「杭州アジアパラゲームズ競泳競技準備役員」にて検討する。

別添1) アジアパラ参加要件

別添 1)

杭州 2022 アジアパラゲームズ参加要件

NPC（国）に選考されるために選手は以下の要件を満たしていなければならない。

- 2023 シーズンの WPS アスリートライセンス（国際ライセンス）を登録済であること。
- 2022 年 1 月 1 日より 2023 年 7 月 8 日の間に開催の WPS 公認の長水路競技会において MQS を突破していること。記録樹立時にアスリートライセンス登録済であること、または世界/地域記録の認定スプリットタイム（同距離・同ストローク）であること。これらは WPS 世界ランキング表に記載されている記録である。
- 2022-2023 シーズンに有効なアスリートライセンスポリシーに則った MQS を突破していること。
- 国際クラスがあり、その競技クラスステータスが R、C、または FDR であること。
- リレー限定選手（MQS なし）を各国リレーチームに 1 名追加できる（リレー以外の種目には出場できない）。その場合は、大会組織委員会がアジアパラリンピック委員会へ連絡すること。最終プログラムでは複数のリレー種目にそれぞれ別のリレー限定選手 1 名をエントリーさせることができる。